

災救通信

冬季平時訓練

道内は今年も厳しい冬を迎えている。今シーズンの特徴として、暴風雪の日が多く交通障害なども多発している。こうした中、各地では降り積もった雪の片付けに追われているが、豪雪地域を抱える支部隊では、恒例の冬季平時訓練が今年も実施された。

空知支部

1月30日、赤平市に於いて災救隊空知支部隊（高坂正道隊長）では冬季平時訓練として、市社協より要請のあった独居老人宅などの除排雪を行った。午前9時、集合場所となった本鏡分教会（畑瀬禮治会長）には、支部内各地よりOB隊員を筆頭に参加者が次々と集合し、結隊式が行われた。

結隊式では、奥村教区災救隊長からあいさつがあり、続いて新谷和延空知支部長より「ボランティア団体も増加し、特定の地区で活動を継続することがむずかしくなってきたが、地域行政とのつながりを強め、有事に備えることが大切である。」

また、災害が起こらないよう、常日頃のひのきしん活動が大切である。」とあいさつがあった。

また、来賓として、赤平市社会福祉協議会事務局長 浅倉 卓氏があいさつに立ち「赤平市では7年前にも活動下さったが、このように大勢の方にご協力いただくこと感謝致します」と述べた。

結隊式を終え班毎に分かれ早速作業にあたった。大型の投雪機やタイヤショベルを駆使しての大掛かりとなった現場や、人海戦術でスコップ、スノーダンプだけで住民の要望に応える現場もあった。

現場近くの本鏡分教会畑瀬会長は、この地区の町内会長でもある。細やかに地



畑瀬会長と打合せの浅倉局長。

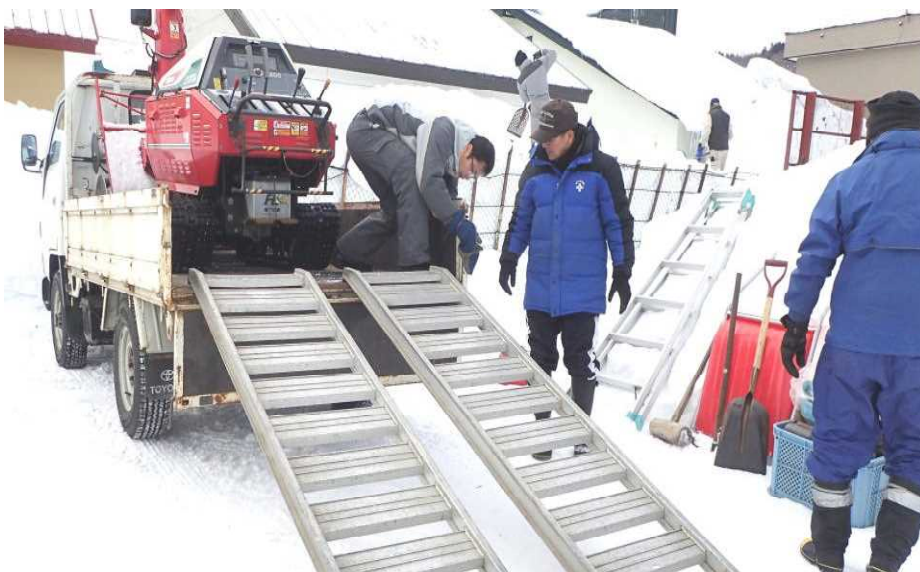
平成31年
2月1日
第16号

発行

天理教
災害救援
ひのきしん隊
北海道教区隊

逐次発行

宣誓
我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。



大型の投雪機を持ち込んで除雪作業にあたる。

域住民の様子を伺いながら作業を進めていたが、「こうした支部活動の大きな応援をもらって作業出来ることは、本当にありがたううれしいこと」と笑顔で語ってくれた。



煙幕のように雪を飛ばす。右端が坂本支部前隊長。

また別の現場では宮崎正明 教区災救隊元副隊長をはじめ、坂本忠則支部前隊長等がスコップを片手に、屋根とつながるまで溜まってしまった雪を、大型投雪機の誘導や補助を行いながら次々と片付けていた。

坂本前隊長は支部のこうした活動について「長年続けて来て良かった。それは昨年の胆振地震から、災害はどこでも起こりうるかも知れないという認識の下、行政や地域とのつながりを密にし、有事に備えることが出来るからね。」と述べ更に「今回は曜日が悪く若い人が少ないが、次代を担う隊員の参加や育成もしなきゃね。」と投雪機の飛ばす雪煙を眺めながら語ってくれた。



ベテランが率先し作業にあたる。

赤平市では一日の作業の当初予定を上回り8軒の除排雪作業を終えることが出来た。予定以上の成果に、翌日予定されていた芦別市へ急ぎよ移動して、芦別市社協より依頼の住宅2軒の除排雪を行った。訓練は二日間の予定であったが、こうしたことから一般隊員はこの日で解散となった。

翌31日は、引き続き芦別市で作業を実施し民家1軒を、支部隊長、副隊長の4名と市社協職員2名で除排雪を行った。

こうしてすべての作業を無事に終え、住民からの感謝の言葉を胸に、それぞれ帰路についた。(少雪年を除く32年目の活動。)

のべ参加人数は婦人会12名を含む39名。使用機材 大型投雪機、タイヤショベル。一般住宅の除排雪11軒。



高橋支部長（手前）をはじめ結隊式を行う隊員一同。

南空知支部

南空知支部隊（寺澤信彦隊長）でも1月30日から31日の両日、三笠市を中心に市社会福祉協議会より要請のあった独居老人宅などの屋根の雪降ろしや除排雪の作業を実施した。南空知支部も長年に亘り活動を継続し、20数年以上実施している。

午後0時半、三笠市にある幾春別分教会（豊島進会長）で結隊式が行われた。はじめに奥村教区隊長があいさつに立ち「何に付けてもつつい、表舞台に心を奪われがちになるが、陰徳を積むこ

との大切さを教えていただいている。活動の陰の働きに感謝し、普段の布教活動こそが陰の徳積みで、守護につながると思う。」と述べた。

続いて高橋善嗣支部長から「この活動もそうであるが、やはり周りの方々喜んでもらう、楽をしてもらう、いわゆるハタラクの心で何事も務めさせてもらうことが大切なことである。」と述べた。

また、来賓あいさつとして、細川良昭三笠市社会福祉協議会会長から「毎年のみなさまの善意の心、大変ありがたく感謝申し上げます。三笠市は6万人あった人口も8500人となった。高齢化が大変進み、除排雪を春を迎えることが出来る」と感謝の言葉を述べた。結隊式が終わると早速、隊員達は2班に分かれて現場へと移動し、除排雪作業を行った。



細川社協会長。

現場は、さすが豪雪地帯というだけに屋根に積もった雪が1層50cm近くとなっていた。手際よく屋根の上から投雪用の手作りシューターを使って、次々と雪が流れ落とされる。また、雪降ろしによって1階の窓が割れない

ように屋根の上と下で手順を確認して作業を進めていた。

この現場では三橋理吉勇名分教会長も作業を行っていた。支部災救隊の副隊長でもある。昨年の胆振地震で神殿が全壊の扱いとなった。辛うじて教職舎は使えるがゆがみや傷みが残った。自教会がそうした状況にも関わらず、震災後すぐに札幌東区の、たんす起こしの活動に災救隊として参加してくれた。心境をたずねると、自身が被災者になってからの活動と、その前と



三橋会長（左）と池上職員

では、相手の方への心遣いも深まり、自然と寄り添って活動することが出来、作業に没頭すると自身が被災していることを、忘れられ勇ませてもらえると話してくれた。

また、今回、この活動には三笠市の社協からは5人が活動支援をもらったが、時に一緒にスコップで雪を降ろし、ハンマーで氷を割って作業を進めたが、その中に紅一点の池上愛美

さんに災救隊の感想を伺った。「市民からの要請に、普段は追いつけないことが多いですが、天理教さんのおかげで本当に助かっています。作業はベテランの方も多く、丁寧でおまかせしています。」と頬を寒さで赤めながら話してくれた。

この日の作業は予定をこえて民家7軒の除排雪を行い、宿舎である夕張大教会へと向かった。一日の疲れを風呂で流し、婦人会の方が準備した食事に舌鼓を打った。

翌31日は民家1軒と解隊後、支部内教会の屋根の雪降ろしを行い散会となった。

のべ参加者 婦人会21名を含む57名。
民家8軒 支部内教会1軒。



雪庇が屋根を覆う。落とした雪を豪快に飛ばす。

支部隊長会議 報告

昨年11月1日教務支庁に於いて支部隊長会議を開催した。会議前に2班に分かれて布教活動を実施。荒天のため庁舎前にてよるづよ唱和及び路傍講演と大通にて路傍講演を行った。

・北海道胆振東部地震災害出動報告。9月11日から16日まで災救隊6ブロックで割り当て、のべ217名がむかわ、厚真町に分かれて活動を行った。

・支団災害対策委員会規約について

9月より支団長先生を通じて支団災害対策委員会の設置確認および、規約の制定をお願いしている。さらに隊則も相談し確認してもらいたい。

・地域災害ボランティア組織連携会議について
表記会議に出席いただきたくお願いしているところであるが、既に日程調整が終わった地区もある。にをいがけの大切な機会として、ぜひ活動紹介してもらいたい。(災救隊活動紹介を釧根支団安田隊長が演習発表した)

・立教182北海道・東北ブロック訓練について

5月29日～31日秋田県男鹿市において訓練を予定。北海道からも各支団1名(隊長または副隊長)で参加したい。道南地区は函館から、その他は教区集合解散で苫小牧からフェリーで往復。旅費15,000円。と本部訓練お供2,000円詳細は郵送にて。

・庶務連絡・その他

隊員名簿があれば提出を。隊服Tシャツ追加申し込みは終了。



安田隊長が活動の模擬発表を行った。



荒天の中、大通り公園で路傍講演。

今後の予定

冬季訓練 (いずれも除排雪)

2/16

富良野支団

2/19

小樽支団

2/19～20

天龍支団

詳細は支団へお問い合わせを

立教182年 東北・北海道ブロック訓練
5月28日～6月1日 於：秋田県男鹿半島